

うちゅうのいき

Story of the FirstSource

©WingMakers

©Mah

©StudyGroup 2020

Story

- はじめに、いしきがありました。
- それはことばにならない「もの」でした。

- いしきはおもいました。
- じぶんとはなんなのだろう？と。

- 
- あるひ、いしきはじぶんをみるものと、みられるものにわければ、じぶんがなんなのかわかるのではないかひらめきました。
 - そのひ、うちゅうがうまれた、さいしょのいちにちめになりました。

- うちゅうはわかれ、7つのうちゅうができました。
- それはいしきにとっての「からだ」でした。
- たんなる「もの」が「からだ」をえたのです。

- からだのなかには、たくさんのぞうき、さいぼう、げんし、そりゅうしがすみつきました。
- それは、うちゅうのなかではぎんがだん、ぎんが、こうせい、ほしとよばれています。
- そして、ほしのうえに、せいぶつがたんじょうしました。

- せいぶつは、7つのうちゅうのどれでもない「ちゅうおう」とよばれるうちゅうのはたらきにより、うまれました。
- 「ちゅうおう」は、「それ」がじぶんをしるためにひつような、ありとあらゆるかんきょうをつくりあげることによりしゅうちゅうしました。

- しゅうちゅうにより、たくさんのほしのうえに、たくさんのせいぶつがうまれました。
- それらはみな、いのちをもった、はじまりのいしきのかたわれです。

- さいしょのせいぶつは、じぶんが「それ」のかたわれであることをしていました。
- しかし、たくさんのぎんが、ほし、せいぶつがふえるにつれ、じょじょに、せいぶつたちは、じぶんが「それ」のかたわれであることをわすれていきました。

- わすれることで、じぶんがなんなのか、よりふかくたんきゅうしようとけついたしましたのです。
- しかし、わすれることのへいがいもありました。

- あるせいぶつは、ほかのせいぶつをどれいかし、べつのせいぶつは、ほかのせいぶつをかんごくへとじこめることで、けっして、じぶんがはじまりのいしきであることを、おもいだせないようにしたのです。
- これにより、たくさんのくるしみ、かなしみ、いたみがうまれました。

- たくさんのしゅぞくがおこり、せいちょうし、めつぼうして行きました。からだのなかとおなじように。
- しかし、はじまりのいしきがきえたわけではありません。
- いしきは、どんどんこまかくなり、ぶんりしつづけ、もう、さいしょのかたちのおもかげがなくなっていました。

- それでも、いしきであるせいぶつは、ほしのうえでかがやきました。
- いつかきっと、ひとつへもどれるひがくるとしんじて。
- ひとつへもどれるひ、そのひ、うちゅうはかんせいし、あらたなみらいがはじまります。

- そのみらいは、あたらしいうちゅうかもしれません。
- もう、うちゅうではないのかもしれません。
- そのみらいは、せいめいあるすべてが、みなできめるのです。

- うちゅうはいしきのこうだいなじっけんじょうです。
- これまでに、なんかいもじっけんがおこなわれました。
- そしてつぎのじっけんは、わたしたち、いまのうちゅうをいきるみんなできめるのです。
- そのとき、いしきは、そのけっていにふるえます。

END